

NEWS

2015 年 1 月 3 日(土)

Page: 2

FOR USE AS DESIRED



【本件に関するお問い合わせ先】

公益社団法人日本アメリカンフットボール協会

TEL: 03-3450-9360 FAX: 03-3450-9361

広報担当: 清水 TEL: 090-7241-7556

E-mail: jafahq@americanfootball.jp

Web: www.americanfootball.jp

報道関係各位

－富士通が創部 30 年目で悲願のライスボウル初制覇－
アメリカンフットボール日本選手権『プルデンシャル生命杯 第 68 回ライスボウル』

1 月 3 日(土)、アメリカンフットボール日本選手権『プルデンシャル生命杯 第 68 回ライスボウル』が東京ドームで行われ、富士通フロンティアーズが 33 対 24 で関西学院大学ファイターズに勝利。1985 年に創部した富士通は、30 年目にしてライスボウル初制覇を達成した。

ライスボウル初出場で悲願の初優勝を目指す富士通と 4 年連続 10 度目の出場で 2 度目の戴冠を目指す関西学院の顔合わせとなったこの日の試合。ファーストドライブは、共に敵陣まで攻め込むも無得点に終わっていた。

富士通は、関西学院 2 回目のドライブで再び自陣まで攻め込まれるも、フォースダウンギャブルを止めて攻撃権奪取。すると自陣 29 ヤードから始まったこのチャンスに RB 高野橋慶太と RB ジーノ・ゴードンのランと、けがで欠場のコービー・キャメロンに代わって先発出場の QB 平本恵也のパスで敵陣 24 ヤードまで侵入。最後は、K 西村豪哲が 41 ヤード FG を決めて、富士通が 3 対 0 と先制する。

しかし、関西学院も反撃する。RB 橋本誠司(2 年)のラン、QB 斎藤圭(4 年)のパスなどで着実に前進。第 1Q 終了間際にゴール前 5 ヤードまで攻め込むと、第 3 ダウンのシチュエーションで WR 木戸崇斗(4 年)から WR 木下豪大(3 年)へタッチダウンパス。関西学院が 7 対 3 と逆転に成功する。

追う立場となった富士通は、直後のキックオフリターンで WR 中村輝晃クラークがビッグリターン。敵陣 30 ヤードから始まったドライブでは、RB ジーノ・ゴードンのランプレイでレッドゾーンまで侵入。敵陣 13 ヤード、第 3 ダウン 6 ヤードの場面で QB 平本から WR 中村へのパスが通りゴール前 2 ヤードまで進むと、最後は RB ゴードンがエンドゾーンに走り込み富士通が 10 対 7 と試合をひっくり返す。

3 点を追う関西学院は、自陣 25 ヤードから始まった直後のドライブで、QB 斎藤が WR 大園真矢(4 年)へ 42 ヤードのロングパスを通し富士通陣内へ。タッチダウンこそ奪えなかったが、K 三輪隼也(4 年)が試合を振り出しに戻す 46 ヤード FG を成功させる。

同点に追いつかれた富士通は、RB 神山幸祐のランを軸に攻撃を展開。QB 平本のパスも織り交ぜ敵陣まで進むと、K 西村が 48 ヤードの FG を決めて再び主導権を握る。続く関西学院の攻撃を守備陣の奮闘で無得点に封じた富士通。ランとパスをバランス良く配した攻撃でゴール前 1 ヤードまで前進すると、第 2Q 残り 14 秒、QB 平本が WR 中村へタッチダウンパスをヒット。富士通が 20 対 10 とリードして前半を折り返す。

第 3Q 最初のドライブを無得点に封じられた富士通は、相手陣内 24 ヤードから始まったドライブで着実に前進を許し、関西学院にゴール前 1 ヤードまで押し込まれてしまう。しかし、この窮地でディフェンスが奮起。フォースダウンギャブルも止めてエンドゾーンを割らせない。

自陣 1 ヤードから攻撃権を奪取した富士通だったが、直後のプレイで QB 平本が関西学院 DB 小椋拓海(1 年)に痛恨のインターセプトを許してしまう。さらに富士通は、自陣 24 ヤードから始まった関西学院の攻撃を止められず。関西学院 RB 橋本に 1 ヤードタッチダウンランを許してしまう。

20 対 17 と 3 点差まで詰め寄られた富士通は、WR 中村が再びビッグリターンで好位置から攻撃スタート。敵陣 33 ヤードから攻撃を開始すると、K 西村の 48 ヤード FG につなげ、リードを 6 点に広げる。しかし富士通は、直後の関西学院のドライブを止められず、第 3Q 終了間際に QB 斎藤から WR 木戸へ逆転の 23 ヤードタッチダウンパスを許してしまう。

1 点を追う立場となった富士通は、第 4Q 開始から 3 プレイ目、自陣 47 ヤードの第 2 ダウン 7 ヤードの場面で QB 平本が関西学院 DB 岡本昂大(2 年)にインターセプトを喫してしまう。それでも、富士通は DB アルリワン・アディヤミがインターセプト。一気に敵陣 17 ヤードまで持ち込む。この好機に富士通は、RB ゴードンが 11 ヤードタッチダウンラン。30 対 24 と逆転に成功する。

さらに富士通は、直後の関西学院の攻撃をフォースダウンギャンブル失敗に追い込むと、RB ゴードンの 5 連続ラン攻撃などで着実に前進。K 西村のこの日 4 本目となる FG 成功につなげ、第 4Q 残り 4 分 41 秒で 33 対 24 とリードを広げた。富士通はその後の関西学院の攻撃を無失点に抑え、悲願のライスボウル初優勝を飾った。

12 年ぶり 2 度目のライスボウル制覇を狙った関西学院は、総獲得ヤードで 454 ヤード対 297 ヤードで大きく上回るも、社会人の牙城を崩せなかった。なお、最優秀選手賞にはラン 23 回 95 ヤード、2TD を記録した富士通の RB ゴードンが選出された。

富士通 HC 藤田智

実感がないけど、選手が頑張ってくれたのがうれしい。関西学院は良いチームなので、選手たちには言い聞かせた。状況に左右されず自分たちのすることを成し遂げることができた。とりえず今は勝ったことを喜ぶたい。

富士通 主将 DB 今井善教

本当に最高の気持ちになりました。集中力を持続して試合に挑めました。結果を出せて本当に良かったです。ファンの支えがあつてここまですることが出来ました。本当にありがとうございます。

富士通 K 西村豪哲

ブロッキングとスナッパーが良い仕事してくれた。自分はボールを蹴るだけだったので、(FG を 4 本決められたのは)みんなのおかげです。

以上